
中区の活動事例



中区

名城学区敬老の集い



【名城学区】

■世帯数：2,869 世帯

■人 口：4,676 人

■面 積：2.118km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 名城学区在住の満 65 歳以上の高齢者を対象に、毎年「名城学区敬老の集い」を開催。参加者数は約 120 人。
- ・ 会食や伝統芸能の鑑賞などを行い、参加者同士の交流を図る。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

安心・安全・快適なまちづくりを目指しています。

2 きっかけ、背景

隣近所との交流が深かった頃と異なり、現在はマンション等に居住し、表でちょっと立ち話をするというようなことがなくなったため、地域の絆づくりを目的として敬老の集いを開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長

(2) 他団体との協力

敬老会

(3) 運営協力

各町内の役員に出席者の把握や当日の案内をお願いしている。



4 実施のスケジュール

毎年9月に「敬老の集い」を開催し、当日のうちに反省会を実施している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

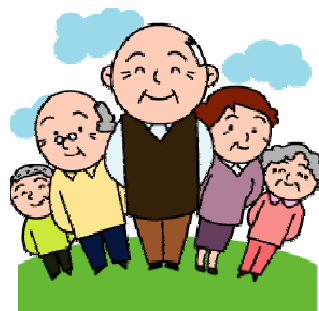
年々敬老会への参加者が増加しており、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

年々居住者が減少しており、参加者の確保に苦労している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。現在の活動を維持していくには若い世代の参加が必要であるが、なかなか若い世代の参加がない。



絆づくり御園学区祭



【御園学区】

■世帯数：1,760 世帯

■人 口：2,547 人

■面 積：0.638 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 御園小学校の体育館などを会場に「絆づくり御園学区祭」を開催。参加者数は約 140 人。
- ・ 平成 21 年度に第 1 回が開催され、これまでに長寿会行事、舞台演技鑑賞、お茶会（子どもたちが抹茶を点てる）、鉄道模型体験など子どもから大人まで楽しめる企画を行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

児童、保護者、高齢者が一般学区民と一堂に会することで、地域住民の顔の見える関係づくりにつながり、絆を深めることができる。

2 きっかけ、背景

地域住民の高齢化、子どもの減少傾向を踏まえて地域住民のふれあう機会をつくり、地域の絆を深めていきたい。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員、女性団体・女性会、老人クラブ
計7人（学区連絡協議会役員）

(2) 他団体との協力

御園小学校、御園小学校トワイライトスクール

(3) 運営協力

小学校やトワイライトスクールに呼びかけ、子どもたちの参加を得ている。

4 実施のスケジュール

H21年 8月 学区協議会役員会において提案



10月 絆づくり御園学区祭（第1回）を開催



H22年 9月 学区協議会役員会にて「大茶会」を提案



11月 御園学区祭「絆づくり大茶会」（第2回）を開催



毎年8月 絆づくり御園学区祭を提案



10月 絆づくり御園学区祭を開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。舞台演技や鉄道模型等、子どもから大人まで楽しめるよう内容を工夫して、交流のきっかけづくりに役立てている。

(2) 苦労した点

参加者の確保。できるだけ多くの人に参加してもらうために、土曜日を開催をしたり、チラシを配布するほかにも個別に声かけを行っている。

(3) 今後の課題・展望

行事の内容を充実させるために、活動資金の確保と他団体との連携は必要である。

(4) メッセージ・アドバイス

より多くの人たちに集まってもらうために、各世代の興味・関心の高い活動となるよう工夫する必要がある。



非常時に皆で支えあい助けあえるまちづくり



【栄学区】

■世帯数：5,033 世帯

■人 口：7,279 人

■面 積：1.290 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 栄小学校や仲ノ町アイディア公園及び地域の小公園にて、地域の防災力を高めるための取り組みを展開。延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 民生委員による高齢者への啓蒙活動。給食会などで阪神大震災の被災者による被災体験の講話を行うなど、災害時に関する勉強会を開催。
- ・ 学区、消防団、女性会などがそれぞれの活動の中で近隣住民の見守りと人間関係の構築を図る。
- ・ キッズファイヤー（少年消防団）による地域の危険箇所等のポイントマップづくりも行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

色々な役職を兼任している人も多く、そのマイナス面をとらえて批判の声も多いが、在住人口が少ない現状ではやむを得ない。むしろプラスにとらえて各組織が互いにカバーしあい、横のつながりを固くすることで地域と密接につながることが可能である。

2 きっかけ、背景

高齢化が進み、災害時に自力での避難が難しい世帯が増えている中、東日本大震災をきっかけに防災に取り組む機運が高まった。また、阪神大震災の被害者から話を聞く講演会に学区関係者が参加した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会
計約 100 人

(2) 運営協力

若い世代（現役の PTA や OB など）の参加を促したい。

4 実施のスケジュール

H23 年 阪神大震災被災者の講演「生への『すき間』30 センチ」を聞いたことから栄
2 月 学区でも何かを始めようという声があがる。



3 月～ 学区、民生委員、消防団、女性会それぞれの活動の中でいろいろな発見等を
話し合い情報を共有することできめ細やかな見守りネットワーク、緊急災害
時の連絡網、避難誘導を徹底したい。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。小
学校での行事に高齢者を誘い、子どもたちとの自然
な交流を通じて連帯感が生まれた。

(2) 苦労した点

参加者の確保。新規の参加者を増やすこと。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と他団体との協力が今後の課題。各種団体の構成員も高齢化しつ
つあるので次世代の参加を推し進めたい。



ふれあい給食会



【新栄学区】

■世帯数：7,205 世帯

■人 口：10,114 人

■面 積：0.832 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 新栄学区在住の 65 歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に「ふれあい給食会」を開催。会場は中文化センター。年 6 回の開催で延べ参加人数は約 750 人。
- ・ 主に民生委員児童委員が対象者を調査して調査票及び名簿等を作成。
- ・ 高齢者宅を友愛訪問し、区政協力委員から連絡事項等を伝える。
- ・ 中文化センターの厨房で、民生委員が手づくりした給食を提供する。参加費は 1 人 300 円。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

給食は全部手づくりの 4～5 品を毎回 120 人分用意する。参加者からは美味しい、楽しかったと喜びの声を得ている。

2 きっかけ、背景

高齢化が進み住民間のふれあい・交流を促進する必要があった。区政協力委員をはじめ民生委員の高齢者への取り組みに対する意識が高まり、給食会を通して住民間の絆が深まってきている。給食会を楽しくするためにアトラクション等を入れるようになった。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、女性団体・女性会 計約 150 人（1 回につき、約 25 人）

4 実施のスケジュール

H3 年 住民からの要望により給食会実施に踏み切った
4 月 が参加者も少なく、活動資金にも不安があった。
（事業委託、参加費 1 人 200 円で新栄会館で年
2 回開催）

H7 年 社会福祉協議会より助成を受ける

H8 年 備品費の充実を行い、年 6 回の開催を継続

ふれあい
給食会

日 時 7月11日(水)
午前11時30分

場 所 中文化センター
(新栄三丁目32)

対 象 者 新栄学区在住の65才
以上のひとり暮らし
高齢者

参 加 者 1人300円

申込方法 担当民生委員に300円
を添えて申込み下さい。

新栄学区福祉推進協議会
担当民生委員

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加しており、住民間の交流が深まっている。開催当初は女性の参加が多かったが、最近は男性の参加が増加している。

(2) 苦労した点

参加者の確保。最初は参加者が少なく苦労したが、現在は口コミで増加している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、活動資金の確保、他団体との協力が課題。毎月開催にできれば良いと思う。

(4) メッセージ・アドバイス

高齢者間のふれあいを一人でも多くの人に楽しんでもらうことが必要です。

千早学区もちつき大会



【千早学区】

■世帯数：2,683 世帯

■人 □：4,025 人

■面 積：0.398 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区全住民に参加を呼びかけ、「もちつき大会」を通じて住民の交流を深めるため 10 年以上継続している。会場は千早公園。参加者数は約 300 人。
- ・もちつきのほかに、豚汁も提供する。災害発生時を想定してテントの設営や炊き出しの訓練も兼ねて行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、消防団による車での広報

【アピールポイント】

地域団体との協力体制が構築されている。

2 きっかけ、背景

地域住民の交流やふれあいを促進するとともに、災害の発生に備えて住民の防災意識の啓発を行うため、災害時のテントの設営、炊き出しの訓練を兼ねてもちつき大会を行うこととなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員、体育協力会
計約 60 人

(2) 運営協力

小学校を通じて、小学生に参加を呼びかけている。

4 実施のスケジュール

H23 年
11 月 学区連絡協議会での計画

12 月 学区連絡協議会での準備会

H24 年
1 月 チラシ配布、ポスター掲示

2 月 餅つき大会実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、交流の深まり、担い手の増加。地域住民との交流が深まり、顔の見える関係が防災にも役立っている。

(2) 苦労した点

活動の担い手の不足、他団体との協力。協力者の参加人数が減少、高齢化している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代、他団体との協力が課題。地域住民、協力者のより多くの参加を求めている。

(4) メッセージ・アドバイス

より多くの地域住民との協調、協力が大切です。

ふれあいフェスタ老松



【老松学区】

■世帯数：8,204 世帯

■人 口：11,731 人

■面 積：0.820km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 鶴舞集会所にて年に 1 回「ふれあいフェスタ老松」を開催。参加者数は約 150 人。
- ・ 世代を問わず多くの人に参加できるよう、手芸、書道、絵画などの作品展示、女性会によるお茶席、リサイクルバザー、トワイライトスクール主催の子どもの作品展示など複数の企画を行う。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、女性会会員チラシと各配布

【アピールポイント】

作品展示、リサイクルバザー、お抹茶席などの同時開催によって参加者が多くなった。開催日を毎年 11 月 3 日と決め、毎年開催することにより次回を楽しみに作品づくりに励むとの声もある。

2 きっかけ、背景

地域住民の交流の拠点づくりが目的。地域住民の趣味の作品展示の場、リサイクルバザーなどを同時開催し、気楽な参加を促している。作品展示や搬出は区政協力委員会が協力している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、女性団体・女性会
計約50人

(2) 他団体との協力

老松学区区政協力委員会

(3) 運営協力

ふれあいミニ運動会（三世代交流会）や市女性会体育祭など折にふれ若い世代に協力を呼びかけている。

4 実施のスケジュール

H20年
8月

「趣味の作品を展示したい。リユースバザーの会場が必要。」との声があがる

9月

女性会役員会、定例会、区政委員会と相談し、開催を決定

11月1日

環境バザー値付け等準備

11月2日

作品飾付け、環境バザー、お茶席の準備

11月3日

第1回開催（以後毎年同日に開催）

11月4日

作品搬出、片付け

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民意識の高まり、交流の深まり。回を重ねるごとに展示作品や参加者が増える。住民間の会話がはずむ。

(2) 苦労した点

- 活動の担い手が不足している。昼間勤めに出ている人が多く、準備段階での運営スタッフが少ない
- リサイクルバザーの提供品が少なくなっている。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続、担い手の世代交代、活動資金の確保が課題。平成24年度で5回目の開催となるが、継続は力なりか、地域住民が楽しみにしてくれている。女性会員と若い世代の担い手を増やしていきたい。



災害発生時の共助を目的とした防災名簿づくり



【大須学区】

■世帯数：4,980 世帯

■人 □：7,590 人

■面 積：0.690 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・大規模災害発生時のほか、地域の防災対策（援助支援体制、非常食料及び救助資機材の確保等）に活用する「防災名簿づくり」を行っている。約 2,000 世帯が名簿に登録されている。
- ・全区政協力委員を招集し、区政協力委員は災害対策委員を兼任していることを再認識するとともに、個人情報とその取扱いに対する理解と協力を要請。
- ・個人情報保護を前提に、名簿の記載と提出は住民の自由とした。用紙の配布・収集は組長に依頼するが、封印した名簿を開封せずそのまま区政協力委員に託すものとした。名簿は管理・運営規定に基づき、委員長と区政協力委員の手元で厳重に管理している。
- ・名簿用紙と併せて、災害時の安否確認や避難誘導等への支援に対する申込書を回収する。

【住民へのPR方法】

組長および区政協力委員が情報保護を大前提に名簿を配布・回収

【アピールポイント】

「防災対策名簿」による安否確認、共助意識の高揚で素早い救助活動が可能に。「コピー禁止で名簿の原本は、2部とも世帯主が自書し封印」とした厳格な名簿の取扱基準が、名簿作成への理解と安心感に大きく作用した。

2 きっかけ、背景

東日本大震災を契機として、災害時の共助体制づくりの機運が高まった。従前の災害対策名簿が廃止されて以後、区政協力委員でさえ町内の世帯人員をつかみきれず、災害が発生した時の救助活動に支障をきたすと考えたため。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、委員長他 48 町内会の組長 225 人 計約 274 人

4 実施のスケジュール

H23 年 5 月 執行部役員で名簿の様式、記載事項、取扱規約を決定

6 月 全委員（臨時総会）で作成の協力依頼と取扱いを説明

10 月 用紙 5,000 枚が完成。町内の必要部数を配布

11 月 記入された名簿を組長が封印状態で回収し区政協力委員へ渡す

12 月

- ・区政協力委員が開封し、一覧表 2 部を作成
- ・配布されたファイルに綴じ込み一冊を手元に、一冊を地区本部（委員長）に提出

毎年 10 月 世帯主による名簿の確認（追加、削除）・更新

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、交流の深まり。住民間の連帯意識の高揚、学区の合言葉「ふれあいと絆で結ぶ輪・学区の和」が一層身近なものとなった。

(2) 苦労した点

参加者の確保、理解を得ること。名簿の対象世帯は、基本的には学区連絡協議会の学区費を負担する世帯だが、未加入世帯でも希望すれば認め、学区の付き合いも勧誘したい。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、活動資金の確保が課題。災害対策名簿をもとに、学区の災害マップを作ることにつなげたい。制作に携わる人材が乏しい。

(4) メッセージ・アドバイス

個人情報保護が優先し名簿の作成が難しい時代。住民に命が大切なプライバシーの保護が大切かを問いかけ、名簿整備の必要性を理解させることが重要。

町美運動(街をきれいに)



【松原学区】

■世帯数：3,986 世帯

■人 口：6,868 人

■面 積：0.638k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 年間4回、3・6・9・12月に学区全域の主要道路及び公園の清掃活動（ゴミ拾い）を行う。年間の延べ参加者数は約 600 人。
- ・ 区政協力委員、保健委員、各種団体の代表者に加え各公署の代表者、地元協力企業の有志により、午前中の1時間程度、学区内の清掃を行う。清掃終了後は松原学区センター内で取り組み状況等の総括報告を行う。

【住民へのPR方法】

学区連絡協議会の年間行事予定に掲載、区政協力委員・保健委員による呼びかけ

【アピールポイント】

住民の意識向上から街全体が従前に比べきれいになった。

2 きっかけ、背景

学区内のマンションの増加に伴い、ゴミ出しのルールが徹底されていないことを、区政協力委員・消防団員による放火防止パトロールの際に指摘されたことから、ルールの徹底を呼びかけるとともに各公署(所)の協力のもと町美運動を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、保健委員、学区内諸団体代表、地元協力企業、区役所、保健所、警察、消防、環境事業所、土木事務所の代表者 計約 250 人

(2) 他団体との協力

地元企業の有志従業員、愛知県花き市場組合青年部（別途独自での町美活動も実施）

(3) 運営協力

地元企業への参加要請をすることで協力企業の拡大及び住民の意識向上を図る。

4 実施のスケジュール

H24 年 6 月 「クリーンキャンペーン愛知 2012」
に通常町美運動を拡大開催（第 1 回）

10 月 第 2 回学区町美運動を実施

12 月 第 3 回学区町美運動を実施

H25 年 3 月 第 4 回学区町美運動を実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、環境に対する住民意識が高まった。地元の協力企業が拡大するなど、活動の担い手も増加している。

(2) 苦労した点

放置自転車及び家電製品等の不法投棄物の処理。

(3) 今後の課題・展望

運営メンバーの高齢化しているため、担い手の世代交代を進めて活動を継続していきたい。

橘学区盆おどり大会



【橘学区】

■世帯数：5,829 世帯

■人 □：9,907 人

■面 積：0.647 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 橘小学校サブグラウンドを会場に「橘学区盆おどり大会」を2日間開催。延べ参加者数は約 1,500 人。
- ・ 盆おどりに加えて、子ども向けゲーム、焼きそば・フランクフルトなどの模擬店の出店、さらにゴミの分別指導実施なども行う。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、手づくりポスターの掲示

【アピールポイント】

次世代の担い手として、子ども会、PTA が活躍している。老人席を設けて接待をしている。

2 きっかけ、背景

盆おどり大会は約 50 年前から継続開催している。最初の頃は橘小学校校庭で開催していたが、昭和 62 年からはサブグラウンドで開催している。マンションの建設が多いため、住民同士のふれあいを大事にしていきたいと子どもから大人まで参加できる行事として開催している。PTA、子ども会、女性会など学区全体で取り組み、世代間交流に役立っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、スポーツ推進委員 計約90人

(2) 他団体との協力

地域福祉推進協議会、青少年育成協議会など

(3) 運営協力

PTA も役員交代の時期には次の役員に連絡し、内容や役割を継承している。

4 実施のスケジュール

H23 年
7 月 役員会

7 月 10 日 チラシ・ポスター等の準備

7 月 25 日 模擬店等の打合せ

8 月 1 日 やぐら等の調査

8 月 6 日 前日夕方よりやぐらの組立
・ 7 日 盆おどり大会の開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、住民交流の深まり、担い手の増加。参加者から盆おどりに来て良かったとの意見が多く聞かれた。

(2) 苦労した点

参加者の理解を得ること。これから、時代の移り変わりにより、会場であるサブグラウンドの周辺住民に理解を得るのが大変になってくと思う。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代、活動資金の確保が課題。長く継続開催している行事であり、このままの形で続けていきたい。



学区と小学校との合同運動会



【平和学区】

■世帯数：4,760 世帯

■人 口：7,422 人

■面 積：0.759km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 平和小学校の校庭にて、学校行事である運動会と学区の運動会を合同開催。参加者数は約 500 人。
- 実行委員会を組織し、打ち合せを 2 回程開催。運動会の楽しみを倍増するように競技内容を工夫するほか、賞品も多く確保するようにしている。メインの町別対抗リレーには賞状も授与する。

【住民への PR 方法】

チラシ（プログラム）の各戸配布、掲示板への掲示。小学校では別途 PR を行う

【アピールポイント】

学区としては長年にわたり、継続して開催している行事で、地域と学校が一体となって取り組み、コミュニケーションが良く取れている。

2 きっかけ、背景

以前は地域住民だけで開催されていたが、小学校の児童数が年々減少し、学区と小学校とで合同開催の形を取るようになった。今では、地域と学校との絆もより深くなってきている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、スポーツ推進委員、学区体育部員 計約80人

(2) 他団体との協力

平和小学校の教職員、PTA、子ども会

(3) 運営協力

率先して運営に協力的な若い人に体育部員になってもらうよう、世代交代を進めている。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民間の交流の深まり、担い手の増加。長年実施して来た行事であり地域と小学校が仲良く絆を深めていけると確信している。

(2) 苦労した点

継続事業であり、運営は経験の豊富な人材が多く、苦労はあまりない。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代は少人数ずつ進められている。資金の確保に課題があるが、今後も継続して実施していきたい。

4 実施のスケジュール

H23年 7月 第1回合同運動会実行委員会 打合せ



8月 第2回合同運動会実行委員会 打合せ



9月 合同運動会に必要な賞品購入の打合せ
プログラム等印刷物等の修正と配布



10月 合同運動会の実施
後日反省会



絆づくりになおいっそうの力を



【正木学区】

■世帯数：3,902 世帯

■人 □：7,105 人

■面 積：0.550 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・住民相互の絆づくりのために、年間を通じて様々なイベントを企画・開催している。年間の延べ参加者数は約 1,500 人。
- ・子どもと父親のふれあいの場として夏の盆おどり大会を開催。平成 23 年度の秋のバスツアーは、「正木学区のルーツを探す」をテーマとした。冬には子どもから高齢者まで参加できる「もちつき大会」を開催している。

【住民への PR 方法】

各行事ごとにチラシを作成し、各戸配付、組回覧、掲示板への掲示

2 きっかけ、背景

地域の伝統や歴史、文化の伝承のほか、子ども・青少年の健全育成や、高齢者の増加などに対応してするため、住民との情報共有や意識啓発の必要性を感じ、住民相互の絆づくりを目標に様々なイベントを開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、女性団体・女性会
計約 20 人

(2) 他団体との協力

正木学区連絡協議会、伊勢山中中学校ブロック青少年育成協議会

(3) 運営協力

PTA や「おやじの会」を通じて若い世代との交流ができてきた。

4 実施のスケジュール

H24 年
8 月 盆おどり大会



11 月 バスツアー



12 月 もちつき大会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者の増加、住民意識の高まり、交流の深まり、担い手の増加。
- ・ 地域の人たちがお互いに交流でき、喜ばれている。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保。参加者を得るため、各役員が住民に参加を個別に呼びかけている。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続、他団体との協力が課題。バスツアーをはじめとする地域の各種行事の参加者を拡大するため、広く住民にアピールすることを心がけていきたい。

